



尾形的

1都1道2府43県〇一期一景

photo: Masashige Ogata, writing & layout: Misao Ogata

第四十二章 帆掛け舟

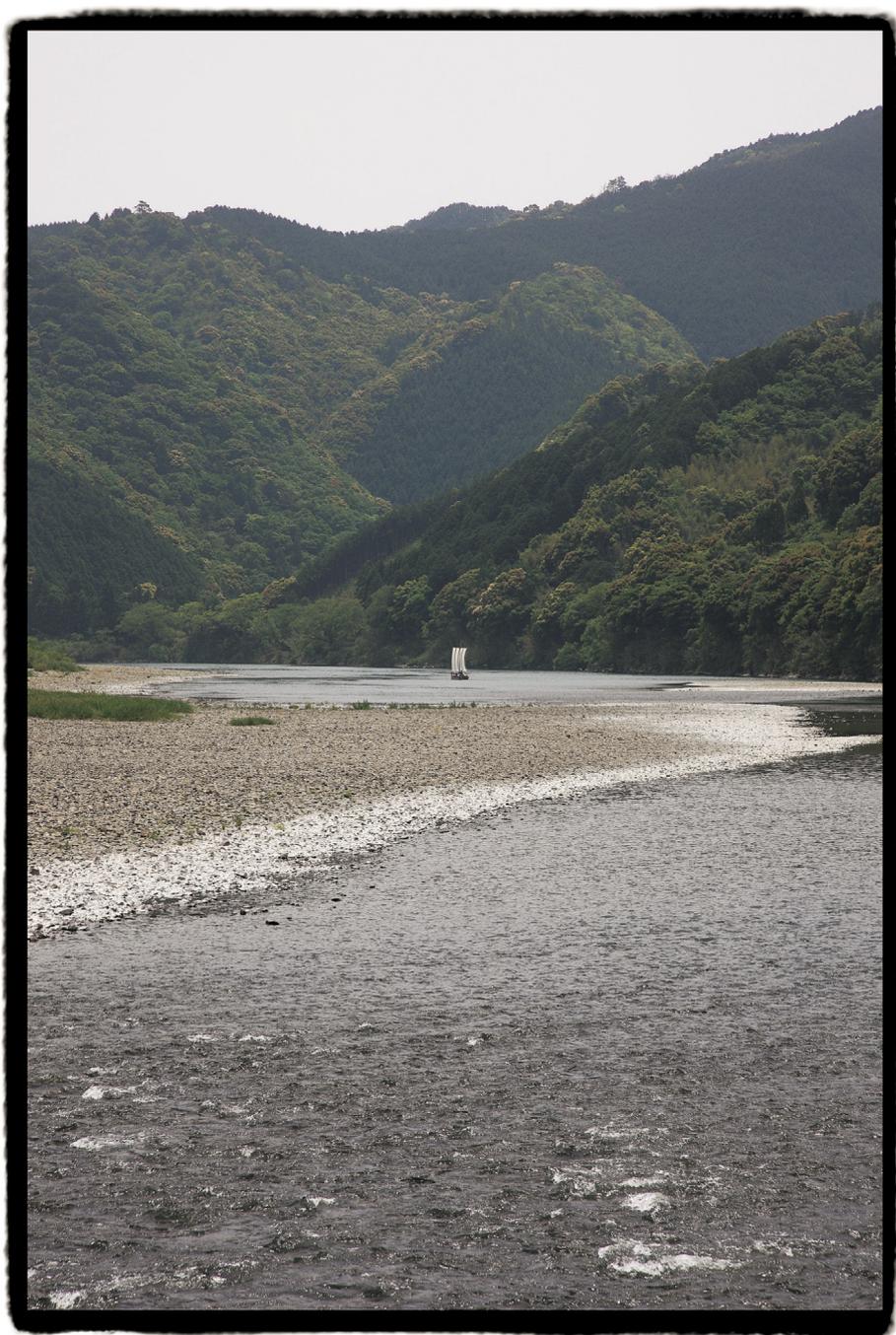
帆掛け舟と言えば、真っ先に思い出すのが安藤広重の浮世絵。遠景にのんびりと浮かんでいる様子を思い出す。そう、帆掛け舟は「のんびりと浮かんでいる」というイメージなのだ。

けれど、誰も伊達や酔狂で帆掛け舟を浮かべているわけではなく（江戸の花火見物は別として…）、それは漁や物資・人を運搬するために使われていたのだ。別に江戸の庶民がクルージングを楽しんでいたわけではない。

とは言え、ここ「最後の清流・四万十川」に浮かぶ帆掛け舟は観光用だ。「舟母船（せんぼせん）」と呼ばれ、明治末期から昭和30年代まで実際に活躍していた帆掛け舟を再現したものなのだから。当時は木炭を河口まで運ぶために使われていたらしい。なるほど、高知県は今も日本有数の木炭生産県だ。

北海道・江差のニシン御殿（ニシンは硬化油として使われていた）とか、日本各地に残る石炭運搬専用の鉄道廃線跡など、その時代、その時代において需要にマッチして栄えた産業の名残りは、日本各地に結構多い。舟母船もまた、船頭さんたちの生活の糧として、往時にはこの川を何艘も行き来していたことだろう。

でも、あまりにも悠然と流れる四万十川にたった一艘浮かんだ“現代の舟母船”には、そんなせわしなさも、また栄枯を語るもの哀しさもない。やっぱり浮世絵で見る帆掛け舟のように、「のんびりと浮かんでいる」という言葉がびったりくる長閑さなのだった。



Profile

尾形正茂 株式会社シェルパの代表であり、カメラマンとして広告や雑誌の他、CDジャケットやグラビアなどに携わり日々格闘中。

尾形 操 平成17年よりフリーとして独立。現在はMacによる広告などのレイアウト・デザインに携わり日々格闘中。

シェルパホームページ

▶ <http://www.sherpa-jp.com>